

とまり
「泊神社」



泊神社の由来は、天照大神の時代（神話）に遡ります。



天照大神が天岩戸に隠れた際、怒りを解くために2面の鏡を造り、1面は伊勢神宮に祀られ、海に流された1面がこの地に泊まり着き祀られたのが「泊」神社の始まりとされます。

飛鳥時代に聖徳太子が鶴林寺を建立した際、側近の秦河勝が紀伊国から氏神の国懸大神を勧請して社殿を建立し、神社所在地は「紀伊村」とされ、それが現在の地名「木村」に変化したとされます。

（祭神：天照大神、少彦名神、国懸大神）

また、この神社は宮本武蔵の養子・宮本伊織ゆかりの神社で（第42号参照）、伊織の実家田原氏の氏神であり、1653（承応2）年に、伊織が宮本武蔵の供養の意を込め全社殿一式を再建しています。

本殿南には江戸時代後期築造の能舞台（フリーライブ等も行われているようです）が、本殿西には南北朝時代の石弾城の石垣の一部とされるものが見られます。また、「三十六歌仙図絵馬」等の文化財もあります。

初詣等のご参考に。

